

# 「獅子の見た夢」

## 感想文集

NPO法人 ふなばし演劇鑑賞会



全く知らなかった内容の芝居でした。太平洋戦争の時代、全ての芸術が軍事的なプロパガンダに利用され、従わなければ生きる道が無く、とうとう死地に追いやられた無惨な出来事。実話だけに重い内容でした。

それでも遺志を継いでいこうとする演劇人の魂の叫びのようなものを受け取りました。獅子舞の中に万感の思いが込められているのでしょう。交流会は熱かった！沢村貞子の「私の浅草」に出てくる丸山定夫とのエピソード、原作者の堀川恵子氏のファンの人の発言などがあり、私はビックリすることばかり。大変な時代の上に我々は生きているのだと改めて思いました。新藤兼人監督の「さくら隊散る」の映画にたどり着き、堀川氏の本（「戦禍に生きた演劇人たち」）を知り、学びの多い芝居でした。こういう出会いがあるのは演劇鑑賞会ならではのことだと感謝したいです。

そうそう、丸山定夫や徳川夢声が出演している「吾輩は猫デアル」という古い映画をYOUTUBEで見つけたのも収穫でした。

（フエロシップ 谷 女 70代）

前から2列目で観やすかった。迫力があつた。今までで一番気に入った。嬉しい表現、悲しい表現がはつきり心に伝わった。歴史を小学生の時に習っていたからわかりやすかった。

（華まる 山崎遥太 中学2年）

今回は久しぶりに二階席で鑑賞し舞台全体がよく見えて、観劇とはこういうものだったのかとしみじみ味わった。その反面、耳の遠いぶんセリフがいまいち聴きづらかった。けれど、ホールで求めた『戦禍に生きた演劇人たち』という原作を読み、これを基にした脚本でうまく練り上げられたいい芝居だったことを理解した。

作家・三好十郎、演出家・八田元夫、俳優・丸山定夫が主人公で弾圧に苦しめられ絡み合いながら話は展開し、若い川村禾門と森下彰子と結婚しても悲恋におわる挿話を巧みに挟み込んで芝居は流れていく。中央の長細い殺風景な台の上で、戦中も戦後もその演劇人の姿が演じられていく。広島原爆に命を落とした名優・丸山定夫の骨壺を運ぶ八田元夫が幕開けに出て、また幕尻の戦後の場面にも三好・八田とともに仏になったはずの丸山たち桜隊の仲間が出てくる。

観客はごちゃ混ぜな時代をながめ不思議に思うけれども、この芝居は新劇人の心に描く「夢」を具体化した舞台なのだと解かれれば了である。そして、人間の、演劇人の「夢」を戦争が、日本という国家がいかに打ち壊し妨げたか、妨げるだけならまだしも、夢追う人を拷問したり殺したりもしたのだ。そういう時代に戻らぬことを祈り、今後ともぬかりなく権力に流されないよう、しっかりとガードを固めて生きると、この劇は教えてくれた気がした。

劇団東演の先輩たちのご努力ご苦勞をはつきり見せていただいた。劇団の今後のますますの発展を祈念し、ふなばしで再会することをつよく願っています。

（マゴメ ムラタ）

戦時中、危険を覚悟で芝居を続けた演劇人たちの姿をリアルタイムで見ているようで、犠牲になる広島に向かう時は涙が出てしまいました。戦後80年、日本がアメリカと戦争したこと知らない若者が増えていると聞きます。一方で、南西諸島では公道を堂々と戦車が走り、いたる所で軍事訓練が行われるなど、知らない間に戦争の準備が進んでいます。八田や丸山定夫が教えてくれた平和の尊さを、私たちはしっかりと受け止めて守っていかななくてはと思いました。（Xふなばし 滝桂子）



素晴らしかった。

（モツキンポット 糸永幸子 70代）

戦争は不幸である。役者の苦しみは、自分で役を選ぶのか？苦しみ、反戦、戦争反対！

（ハッピープリンス 田中弘之 60代）

久しぶりに心に沁みる芝居でした。来年もやって欲しい！（無記名 女）

はるちゃんがやめるところが、絆を感じ、心に残ったと思います。広島に行く時の話し合いの場面は、心に残りました。最後に、あのことは悲しいお話すぎて、ウルツとききました。

（ガーベラ 奥田和佳 小学5年）

演技は素晴らしかった。どの役者さんも、早口で何を言っているのか分からないということなく、セリフが良く聞こえた。今風の盛り上がりがないのは脚本のためで、この話では仕方ないのかも。・舞台装置の工夫が素晴らしい、場面転換をうまくやっている。・2時間半近く、長いと思わなかった。・桜隊と同じく資金難でしょうが、続けてくれるとありがたい。（無記名 男）

戦争に関係ないと思っていても、戦争は全ての人々を巻き込んでしまう。今の世界のあちこちで紛争があるので、なぜ戦争が止められないのか、心が痛む。（ミモザ 無記名 女 80代）

両親が関西で劇団にいて、父が海軍に入り呉市に移り私は生まれた。父が戦死したので、広島祖母の家に移転し、被爆しました。私は今86才、一人助かった自分が、世界の平和のため、被爆の体験を語っています。本日の演目は、私の人生の様でした。今後も頑張ってください。(無記名 女 80代)

じっくりと心に沁みる良い芝居でした。今はピッタリだと思います。

(石本キヨ 70代)

戦前の演劇人の闘いがいかに人間臭く、かつ困難であつたか良くわかりました。今、政府は世論を誘導し、巨額の軍費を注ぎ込み、軍備を進めている。戦争が始まったら、芝居を演ずることも、観ることも困難になるであろう。平和であつての文化・芸能、そして我々の生活。今回の芝居、「歴史に学ぶ」ことの大切さを改めて感じました。

(宙 田口誠雄 80代)

戦時下の苦難の中、それでも人々が演劇に希望を託した姿に心を打たれました。芸術の力を感じました。ありがとうございました。

(オリオン 佐藤大河 高校2年)

最後のタイトル回収が見て面白かった。紙を最後出すのはどうやったのか気になった。

(ガーベラ 奥田和誠 中学2年)

八田、三好、丸山らの演劇にかけるすさまじい熱気(狂気?)・熱量と当時の演劇人のほとぼる演劇愛、芝居愛に感服させられました。「劇中劇」での演出家と役者とのやりとりなど、芝居づくりの一端も教えてもらいました。丸山役の南保さんの獅子舞い、圧巻でした。

舞台は戦中。日本移動演劇連盟に参加し、戦意を鼓舞する国策芝居を上演しなければ演劇活動ができない状況に追い込まれ、団員らは苦悩・葛藤の末に、「苦楽座」は「桜隊」と強制改称させられ、軍都・広島での移動演劇を選択、そして原爆で犠牲に：。

原作「戦禍に生きた演劇人たち」で、著者・堀川恵子氏は序章の最後に「彼らが生きた時代に向き合う時、私たちは改めて反省することになるだろう。あの時と同じ空気が今、この国に漂ってはいやしないか。頭上を覆い始めたどす黒く重い雲から、再びどしゃぶりの雨が降り出しやしないか。そしてその時、果たして私たちは、足を踏ん張って立ち続けていくことができるだろうか。」と著しています。

今年度の国家予算中、軍事費は八・七兆円(三年間で一・六倍、三・三兆円増加)。すでに特定秘密保護法、安保法制、共謀罪といった戦時法制も整えられています。「新しい戦前」とも目される現下、ものすごく意義のある芝居に出会い、多くの方に観ていただきたいと思いました。

(荒馬 草野高德)

戦争の中、生まれました。いいことはひとつもなかった!戦後、演劇人が生き生きと生きた様子に、感激と共に「平和」の大切さを改めて思う。

(無記名 80代)

とても良かった。筋も演技も共に!  
(じゃんけん 清宮昭夫 80代)

『獅子の見た夢』は、素晴らしい作品でした。演劇人たちの芝居への愛着や情熱が見えました。劇団員たちが軍都・広島に行くことへの不安を抱えながら、広島行きに同意していく姿が、戦争に協力させられながら何とか自分達の目指す芝居を実現させようとする、引き裂かれるような苦しさを表現しています。胸がいっぱいになりました。

演劇人の世界は知らなかったのですが、「戦禍に生きた演劇人たち」を読み始めました。現代も戦争をしようとする勢力がいます。パワハラやセクハラも企業などの組織に見られます。良い仕事を続けることが大変であることは、今も戦前も同じだと思っています。

交流会は会員と劇団員とのやり取りが面白く、楽しむことが出来ました。皆さまありがとうございました。

(ハッピープリンス 春日井治 70代)

人間を大事に取り扱っているのが良く分かった。素晴らしい作品だと思いました。

(バジナ 無記名 70代)

戦争の中でも、芝居をずっと続けたという強い気持ちで芝居を通して感じました。時代背景が少し難しいですが、たくさんの方の空襲を受けて、大変な時代であつたことも学びました。平和の大切さをよく知ることができました。

(アマンダ 菅野ちい 中学2年)

昨日、ふなばし演劇鑑賞会の公演、「獅子の見た夢」を見ました。桜隊、丸山定夫、三好十郎については、なんとなく知っていましたが、原作の堀川恵子さん、脚本のシライケイタさん、演出の松本祐子さん、劇団東演の方々の協力と演技で新たなドラマとなり、戦禍にもめげず芝居をやめなかった桜隊と、丸山定夫たち桜隊が犠牲になった広島原爆と戦争の無惨さが、よりよく理解出来たと思います。

最後、劇中劇として演じられる赤い獅子舞と俳優の方々の明るい色の着物が美しく、戦禍にもめげずに芝居を演じ続けたかつての丸山定夫さんたちと、新たな戦前?とも見える今の時期に、タイミングよい上演だと思いました。最後の獅子舞は時代に負けないぞ!との意気を見せる日本の若い人々の平和への願いであると共に、新劇を継承し続けようとのふなばし演劇鑑賞会の意気と映りました。演出基本の明るい和の世界に打たれました。広島原爆で亡くなった名優丸山定夫さんへの追悼でもありましょう。

(ここの葉 水崎野里子 70代)

広島での惨状を知っている我々には、演劇人が広島に行かないでくれ〜と祈るしかありません。戦争が何もかも奪ってしまいました。二度と戦争を起こさない、全ての人の思いに繋がる演劇でした。胸が詰まり、言葉がありません。

(宙 石橋須美江 70代)

戦争があつた時代の大変さがよく分かった。最後の場面で、広島に行っていた劇団員が演技をしていたが、あれは本当にそこで演技をしていたのか、想像だったのかわからなかった。また、生きていたとしたら、なんで生きていたのかわからなかった。

(ルナ 中西洸貴 高専3年)

自分には難しかった。

(子育てネット 後藤つばめ 小学5年)

「それが人間の道」自分のやりたいことをやりたいですね。そして、どうしても譲れないことは守りたいとつくづく思う劇でした。獅子舞、すてきでしたね。

(無記名 女 60代)

とても感動しました。最近観たお芝居の中で一番です。「さくら隊」の話は今までも知っていたつもりでしたが、広島へ行くことになった経緯や、一人一人の思いが良く伝わってきました。ありがとうございます。

(KISS3 弘重三枝子 60代)

多くの人たちに観てもらおうと演劇を夢見ていた若い人たちが、愚かな戦争で命を絶つた…。演劇界に限らず他の芸術の部分でも、どれだけ悲劇があつたのか。想像するだけでも辛い。

最後の獅子舞では涙が出てきた。生きるということは、自分でやりたい道をしっかりと進むこと…それが悔いのない人生だという、そのセリフが胸に刺さった。たとえ戦争でなくてもね。ありがとうございます。

(亜童夢 伊澤輝美 70代)

戦時中の芝居人という存在すら知らない題材だったが、分かりやすく心に残る演劇だった。自分たちのやりたことと政府の圧力との板ばさみにされているシーンは、戦時中ならではの印象的だった。特に、純に赤紙が来たシーンで、万歳を止めたのがとても心に残った。戦争の話では暗い雰囲気になりがちだが、登場人物の明るさのおかげで観やすかった。

(花いかだ 吉田葵 高校2年)

満足だったところ。1. 戦争を生きる人々の描写が生々しくも鮮明に感じられるすばらしい演技。2. 最初の「結末」へと繋がっていく物語性が美しくも切なかった。3. 「獅子の見た夢」というタイトルの意味が最後に感じられる。不満だったところ。2のせいで最初は話の流れが分かりづらい。

(子育てネット 千田帆夏 中学3年)



おめでとうございます！

### 「獅子の見た夢」サイン色紙当選者

1344 菊 菱 金子久恵さん  
2023 ことの葉 水崎野里子さん  
2196 kiss3 弘重三枝子さん

※当選した方は申し出てください。

私は終戦直後の生まれですが、私が生を受ける前に、こんなドラマがあつたことに胸がちぎれそうです。獅子の舞、素晴らしかった。(無記名 女 70代)

(菊菱 金子久恵 70代)

戦争の不条理、多くの悲劇、現在の世界のあり様。心が壊れそうです。セリフは滑舌よく楽しめました。

アンケート枚数 32枚	(回収率2.3%)
当日会員数 1,794名	
例会参加者 1,406名	(参加率78.4%)